

第 26 回 Premium Textile Japan 2025 Spring/Summer 開催報告

「第 26 回 Premium Textile Japan (PTJ) 2025Spring /Summer」が 5 月 10 日、2 日間の会期を終え、無事閉幕いたしました。

PTJ はビジネス商談の場ですが、全国の産地から多くのテキスタイルメーカーが集合しており、「ここに来たら何か新しい発見がある」といった場にもなっています。また、「情報発信」をキーワードにより魅力ある展示会を目指して取り組んでおります。

「What's Next」Sustainable コーナーは、これまでサステナブル素材を集積したコーナーを設けてきましたが、啓発という初期

目標は達成しました。今回から日本国内における旬なサステナブルの取り組み事例や提言、トピックスなどを取り上げて、業界に発信することにしました。その第一弾として一般社団法人 *unisteps* が提言する「ファッション・アパレル産業のサステナビリティを知る展示」を紹介しました。ファッション産業を取り巻く状況の変遷などを可視化しており、今後も団体・企業が一石を投じるような情報発信のコーナーにしていきたいと考えております。

来場者から「カテゴリー別の方が見やすい」といった要望もあり、今回はデニム関係を集積するなどのレイアウトに変更いたしました。コストアップや人手不足などテキスタイル業界は厳しい状況にあり、産地間連携もますます重要になっています。そうした変化に応じてより魅力ある展示会として進化させるよう 2025 年度に向けて変革を進めていきます。



◀展示会概要▶

□ 展示会名：第 26 回 Premium Textile Japan 2025 Spring/Summer

□ 会期：2024 年 5 月 9 日 (木) - 10 日 (金)

□ 会場：東京国際フォーラム ホール E 1 (3,000 m²)

□ 主催：一般社団法人日本ファッション・ウィーク推進機構 (JFW)

□ 後援：経済産業省、外務省、知的財産戦略本部、

独立行政法人日本貿易振興機構 (JETRO)、

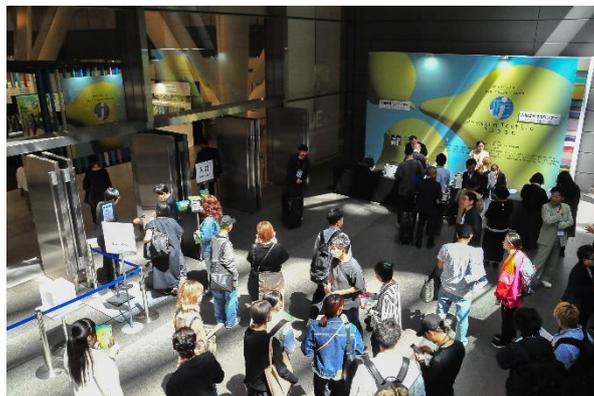
独立行政法人中小企業基盤整備機構、東京都、日本商工会議所、日本繊維産業連盟、

日本化学繊維協会、一般財団法人日本ファッション協会、一般社団法人日本アパレル・ファッション産業協会、

一般財団法人ファッション産業人材育成機構、一般社団法人日本百貨店協会、日本繊維輸出組合、

日本繊維輸入組合、日本ジーンズ協議会

□ 来場者：バイヤー及び招待者、業界関係者、学生 <Web 事前登録者に限定>



■ 出展者 : 70 件 92.5 小間

	件数	小間数	内 新規
国内	59 件	79.5 小間	5 件 / 6 小間
海外	11 件	13 小間	3 件 / 4 小間
合計	70 件	92.5 小間	8 件 / 10 小間

<新規出展者 : 8 社> KIRARI(株)、大松(株)、西田通商(株)、(株)ファイブワン、(株)ROKAL、DALIAN EXE TRADE CO., LTD. / China、INTIMITI AUSTRALIA PTY LTD / Australia、PAKA INTERTEX CO., LTD./Korea

<復活出展者 : 3 社> (株)サンウェル、(株)シャンプレー、HANGZHOU MEHO SILK CO., LTD. / China

PTJ2025SS 出展者リスト ▶ <https://www.ptjapan.com/2025ss/exhibitor/list.html>

コロナ禍明けのアパレル商戦は回復が見られましたが、昨年を大きく上回るほどの盛り上がりは欠いています。生地調達には慎重で、リスク回避の引き付け型になっています。これが別注よりもストックサービスを利用するバイヤーが増えた要因です。来場者の要望に応え、ストックサービスを提供する企業は増加しています。

とはいえ、現実の産地は厳しい生産状況にあります。北陸産地の企業からは「染色加工は3カ月待ち。一部加工は4カ月待ち。設備を増やしても動かす人がいない」という悲鳴が聞こえてきます。「大手の染色工場がパンパンなので、町工場を協力工場にして対応」(明林繊維)する企業もあります。加工場の納期遅れは、全国的にも懸念され、さまざまな生産現場に広がっています。尾州産地の国島は「機場が減っている。高齢化も背景にある」、「テキスタイルだけでなく国内縫製工場も減っており、コストアップも問題だ」(モエランスタジオ)、「産地の染色、整理加工場は地元企業の仕事を優先している」(滋賀麻工業)、「加工場は人手不足。一つの地域で他産業と人材を奪い合う。加えて輸送の2024年問題もある」(川田ニット/ケーシーアイ・ワープニット)とも。

自社工場で生産し、協力工場へ積極的に設備投資する企業は少ないのが現状です。こうした生産背景に対処するため、今後の JFW テキスタイル展は新しいステージへと向かいます。産地間連携、コラボレーションを推進し、より総合的な展示会として進化させたいと考えています。

◇来場者数 : 5,227 人

若手デザイナーや学生の来場者は増加し、会場は終日賑わったものの、アパレル・問屋の来場は微減しました。長らく業界の課題である、「素材をセレクトできるプロの人材の減少」が影響していると思われます。

それでも新型コロナ禍に苦戦していた時期に比べ、業界は確実に回復に向かっています。海外バイヤーは着実に増えており、円安傾向が続くいま、新たなビジネスチャンスとなっています。

来場者からは「久しぶりに来たが、新しい企業もあり、新鮮だった」「トレンドがわかった」「探していた素材が見つかった」「日本企業ががんばっていると改めて思った」といった感想がありました。「デニムが並ぶ通りもあり、以前より見やすかった」と会場レイアウト変更を評価する声もありました。



■ [トレンド&インデックス]コーナー

ミラノ～上海で発表した 2025S/S ジャパン・トレンドの最終発表の場となった PTJSS 展。空間構成のテーマは「多様性」

今年はパリ五輪もあり、新しい時代幕開け。新しい価値感や多様性のあり方を再認識し未来を直感的に感じる気持ちや感情を表現。価値感の多様をイメージし、たくさんの色を繰り返し使って環境を構築、グラフィックモチーフとの組合せで五感に訴える「フィーリング」を発信。PTJ 展では、『What's Next』コーナー など関連イベントコーナーのプランとも連携し、空間演出しました。(展示数：トレンド 389 点、インデックス 179 点)



◇JFW テキスタイルビュー (ジャパンテキスタイルトレンド) 2025SS (テーマ) <あらゆる角度から接点を持つ>
たそがれ ⇨あかつき - Sunset ⇨Sunrise - 建築家 ⇨小説家 - Architect ⇨Novelist -
Jazz ⇨Classic - Jazz ⇨Classical - 散歩道 ⇨ 帰り道 - Promenade ⇨Return path-

テーマ詳細 ▶ https://www.japancreation.com/jfw_textile_view/2025ss/ja.html

■ 「What's Next」-Textile - 「次の売れ筋となるテキスタイル」の魅力を開発

昨年からは開始した「What's Next」Textile コーナーには、39 社から 98 点の応募があり、審査を通過した 35 社 35 点の生地を展示いたしました。これは来場者がトレンド性、感性、技術、意匠、風合い、マーケティング性、好みなどの観点

から投票で評価する来場者参加型の企画です。来場者が「次の売れ筋テキスタイル」を選びますが、出展者にも開発への刺激を与えているようです。

バイヤーはゴールドシール、学生はブルーシールを貼りました。投票数は昨年の3倍ほどに増えました。ブースには「What's Next」Textile コーナーにあった生地はどれですか、と尋ねて来られるバイヤーも多数おられたようで、集客機能も果たしています。出展者・来場者双方から評価を得る新たなコンテンツとして浸透しつつあります。



◇ 「What's Next」テキスタイル投票結果～

1位 東レ

「ウルトラスエードNU」

ポリエステル 80%, ポリウレタン 20%

Ultrasuede® nu 0.6

(植物由来の再生資源を粗原料の一部に使用)
×アルミフィルム×ナイロントリコットの貼り合わせ。
形状記憶。



2位 ファイブワン

「サファリエンブroiderieプリント」

綿 100%

サウラー社のレース機エポカ 6 を使用したシングル幅エンブroiderie。粗野な原糸をつかった生地に細やかなステッチの動物たちを全面に刺繍し、その柄を 3D マッピングしてたくさんの色をプリントしています。



3位 溝呂木

「チェックタフターレーザーカット刺繍」

ポリエステル 100%



4位 サンウエル

「マースルージャカード」

ポリエステル 94%,

ポリウレタン 6%

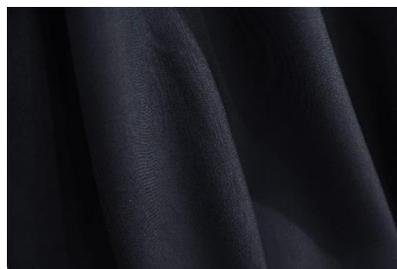


5位 ドゥミルサンク

「Entalpy」

分類外繊維(モダール) 52%,

ポリエステル 44%, ポリウレタン 4%



■ 「What's Next」 -Sustainable- 「今私が着ている服」

従来のサステナブル素材を集積したコーナー展開は、啓発の初期目標を達成したため、素材展示は、トレンド&インデックスコーナーでのサステナブル分類下げ札で表示することに集約しました。今回の PTJ 展では、一般社団法人 unisteps が提言する「ファッション・アパレル産業のサステナビリティの今を知る展示」を紹介しました。

いま私が着ている服、あなたが着ている服は、どこから来てどこへいくのか。どのように生産され、どのように廃棄されていくのか。「代表的な素材の原料」と「10 年間の変化で服のカタチからは見えてこない、ファッション産業を取り巻く状況の変遷を可視化し、ファッションと自然環境の繋がり、ファッションの労働環境、人と服の関係性、さまざまな情報で構成されたインフォグラフィックパネル」を展示して紹介しました。



FASHION REVOLUTION JAPAN インスタグラム @fashionrevolutionjapan

《JFW テキスタイル展 実施スケジュール》

第 27 回 Premium Textile Japan 2025 Autumn/Winter (展示商談会)
第 33 回 JFW JAPAN CREATION 2025(繊維総合見本市)

* 同時開催

日時： 2024 年 11 月 6 日 (水) -7 日 (木) 10:00AM-6:00PM

場所： 東京国際フォーラム ホール E



第 28 回 Premium Textile Japan 2026 Spring/Summer (展示商談会)

日時： 2025 年 5 月 14 日 (水) -16 日 (金) 予定

問い合わせ先：一般社団法人日本ファッション・ウィーク推進機構 (JFW) テキスタイル事業事務局
Tel: 03-6805-0791 E-mail: info@japancreation.com